向山から

向山図書館だより

こ・ん・に・ち・は！

校区市民館に送る本を準備中
１館１００冊交換します

夏本番、蝉時雨が降りそそぐ向山大池公園です。暑い中、ご来館いただきありがとうございます。

２０１５年に『配本センター』から名称変更をした『向山図書館』ですが、これまでどおり**配本業務**を行っています。配本とは、ネットワーク館（※）および地区市民館・校区市民館の図書館分室に定期的に本を配り入れ替える業務です。図書館から遠い地域の方にも、気軽に本に親しんでいただけるようラインナップを工夫してお届けしていますので、お近くの市民館をおたずねくださいね。

９月はネットワーク館において各館５００冊を交換し、新しい特集セットもお送りしますのでどうぞお楽しみに！

※図書館電算システムとオンラインで結ばれた８館
青陵・南部・北部・牟呂・二川・石巻の各地区市民館、
こども未来館、アイプラザ豊橋

また、現在【あいちトリエンナーレ2016】のコーナーを設けて、関連の書籍やパンフレット類を展示しています。

トリエンナーレは３年に１度開催される国際的な芸術祭。名古屋市、岡崎市に続き、今回は豊橋市も会場になります。アートを映すわが町にどのような表情が生まれるのか楽しみですね。

◆◆◆ 秋の特集予定 ◆◆◆

児童：おまつり　一般：向山クロニクル　～文化会館50周年～

図書館の仕事って‥

どんなもの？？

図書館の仕事には、皆様がよくご存じのカウンター業務（貸出・返却・予約・利用者登録等）や、本を棚に戻す配架業務などがあります。そしてその他にも、様々な種類の仕事があります。

今回は中央図書館１階の児童図書／一般図書担当と２階の郷土・レファレンス担当を簡単に紹介します。

一般図書担当は、主に、展示コーナー、情報コーナー、ティーンズルーム等の担当に分かれ、各資料の管理・受入や、イベントの企画・実施、情報誌の発行等を行っています。

児童図書担当は、主に、児童のコーナー本の入替・管理、イベントの企画・実施、ブックスタート等を行っています。

郷土・レファレンス担当では、郷土に関する資料の収集・整理やレファレンスサービスを行っています。また、司文庫の整理・収集や展示会の企画なども担当しています。

その他、１、２階共通の業務として、本を長く大切に使えるよう、破れたりページが取れたりした本の修理も随時しています。また、図書館まつり、本のリサイクルフェア等の特別イベントの実施もしています。

中央図書館にご来館の際は、ぜひ棚だけでなく周辺や案内看板などもご覧ください。各担当の工夫のあとが見られるかもしれません。またＳＮＳで各担当の職員が情報を発信します。ぜひご覧ください。

公式ブログ＆Twitter 好評配信中！

■豊橋市図書館日記～Library Diary～
http://ameblo.jp/toyohashi-city-library/

■Twitter 公式アカウント
https://twitter.com/tosho07288312

図書館の今を伝える情報紙
LIBRARY NEWS
No. 103

豊橋市図書館だより
第103号　平成28年8月1日
＜編集・発行＞
中央図書館
〒441-8025 豊橋市羽根井町 48　TEL:(0532)31-3131
向山図書館
〒440-0862 豊橋市向山大池町 20-1　TEL:(0532)62-2944
大清水図書館
〒441-8133 豊橋市大清水町彦坂 10-7　TEL:(0532)39-5900
豊橋市図書館ホームページ
http://www.library.toyohashi.aichi.jp/
メールアドレス:tosho@library.toyohashi.aichi.jp

展示イベントもりだくさん

8月～10月の図書館資料展では・・・

「平和を求めて」図書館資料展
７月９日（土）～８月２８日（日）
特攻は今

豊橋・田原市連携図書館パネル展
豊橋会場　９月３日（土）～10月10日（祝）
田原会場　11月12日（土）～1月12日（木）
魅力対決！
豊橋 vs 田原

10月からの展示予告

丸山薫パネル展示
10月15日(土)～10月30日(日)

昭和・平成のまんが展
11月5日(土)～12月25日(日)

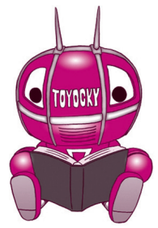
中央図書館２階の展示コーナーで行う図書館資料展では、豊橋に関連する資料や、作家の遺品など、歴史・文化がある豊橋の魅力を伝える展示を開催してきました。

豊橋・田原市連携図書館パネル展では、豊橋と田原の図書館が自分たちの町の魅力を人物、本・映画、絶景など様々なジャンルでアピールし、対決します。投票形式ですので、ぜひ展示をご覧になって、魅力を感じたほうに投票をお願いします。

各展示の詳細は後日、豊橋市図書館のホームページで発表します。

目 次

P.2　ようこそ中学生！職場体験★実施中
ミナクル大清水図書館です
P.3　【特別連載】図書館 100 周年記念誌番外編⑥
P.4　向山からこ・ん・に・ち・は！向山図書館だより
図書館の仕事ってどんなもの？？



ようこそ中学生！ 職場体験★実施中

図書館のカウンターで「中学生が職場体験実施中です」や「職場研修中です」という看板をご覧になったことはありますか？図書館では、年間を通じて職場体験学習や業務研修を受けつけています。昨年度は、中学生２８人、高校生６人、合計３４人受け入れました。

職場体験奮闘中
本がいっぱい！
全部チェックしていきます。

職場体験奮闘中
本１冊１冊丁寧にバーコードを読み取ります。

〔中学２年生Ｂさんのスケジュール〕

9:00～	図書館の棚の場所と配架作業（返ってきた本を所定の棚に戻すこと）の注意点などの説明
9:30～	開館時に来館された方に元気よく挨拶 返却本の配架
10:00～	他館からの配送本の処理
11:00～	サポート付きで貸出カウンター業務
12:00～	昼食・休憩
13:00～	サポート付きで返却カウンター業務
14:00～	本の装備の体験（2冊）
15:00～	挨拶をして終了

体験者の方からは「図書館の仕事は、カウンターでの貸出返却業務だけだと思っていたが、予想以上に力仕事が多くて大変だった」「面白い本に出会えて楽しかった」などの声が聞かれます。

職場体験をどこに行こうか迷っている中学生の皆さん、知識と文化の宝島である図書館で将来の仕事について考えながら、一緒に仕事してみませんか？興味のある方は中央図書館までお問合せください。

中央図書館 TEL(0532)31−3131

ミナクル 大清水図書館です

☆郷土の資料特集☆

大清水図書館は一般図書や児童図書だけでなく、郷土の図書や資料も所蔵しています。

例えば「大清水の絆」という本によると、戦前の大清水地区には飛行場があり、多い時で３本の滑走路があったそうです。今でも飛行場の面影を残している場所があり、「大清水旧陸軍飛行場跡地を歩こう！」というウォーキングマップ（全長９kmのコース）も所蔵しています。図書館に来られたついでにこのウォーキングマップを基に散策されてみてはいかがでしょうか。

郷土の資料というと、難解な文章の本だったり、昔の本といったイメージがありますが、大清水図書館では親しみやすく、生活や学校の調べ物に役立つものという観点で地元の地区を調べたものを中心に所蔵しています。場所は図書館フロアをまっすぐに進み、つきあたりを左に曲がった奥の棚です。

皆様の御来館と御利用をスタッフ一同、お待ちしています。

特別連載　図書館 100 周年記念誌番外編 ⑥

中村　光雄（元豊橋市図書館長・図書館 100 周年記念誌編集委員会委員）

豊橋市図書館 100 周年記念誌の刊行を記念した特別連載です。昭和 27 年、図書の公開を開架に切り替え、新しい図書館に生まれ変わりました。

図書の分類切り替え
…より早く、より確実に探し出す…

図書館創立以来、本の分類は帝国図書館※1 分類表を使って分類がおこなわれていた。この分類表は本の主題によってまず 10 の類に分け、それぞれの類を甲・乙・丙…と５つの類に分けるという方式で、細分化しにくい難点があった。当時世界の流れとしては、デューイの十進法による分類が主流で、日本でもこれを参考にして、昭和 3(1928) 年、森清氏が『日本十進分類法』を刊行していた。この分類法は世の中の森羅万象、本の主題となり得る事項をまず 10 の類に分け、類の中をさらに細かく 10 の綱に分け、各綱を更に 10 の目に分けるというように、どこまでも細分化（展開）できるというものであった。そして、地理や言語など各類や綱に共通して使用できる区分を加え、合理的でかつ展開自由、利便性にすぐれた分類法であった。

社会が進化、発達するにつれて、出版される本の主題も進化、細分化する。図書館では利用者が求める本の検索に当たって、常に早く正確に探し出さなければならず、そのために合理性と進化に対応できる分類法を使うことが必要となる。その観点から豊橋でも旧来の分類表では応じきれなくなっていたので、十進法の分類に切り替える決断をした。

終戦直後、昭和 22(1947) 年に、大学時代多少図書館に関わったと思われる職員が配置され、この職員が十進法の考えと利便性のあることを館内に知らせた。しかし当時の少ない人数では実行に移すことはできず、彼は間もなく病気で亡くなってしまった。しかし種は受け継がれ、昭和 24(1949) 年芽生え、花となり実となった。まず洋装本※2 すべてを新方式で分類し終えた。しかし残念なことに当時館には『日本十進分類法』の初版しかなく、すでに５版まで改訂が加えられていることを知らなかった。そのため改訂６版が刊行されるのを待って、より新しい分類法にもう一度改めることになった。不勉強が呼んだ、ちょっと大きなロスだった。

それにしても切り替えは大仕事で、和装本※2 を除いた約４万冊を、すべて一度目を通し、書かれた内容を把握しなければ分類できない。さらに主題が複数ある本はどこへ分けるか、どこへ置けば一番利用されるかを考えると夜も眠れなくなる毎日だった。

本の虫干し

空調設備も燻蒸機器もなかった時代の話である。羽田文庫本を中心にして、和装本は約１万５千冊あった。和装本は湿気を嫌う。紙魚※3 が繁殖する。紙魚の被害を防ぎつつ綴糸のほつれや切れた糸の補修等をするために、年に一度虫干しをおこなった。職員全員で書庫から３階の講堂へ運びあげ、塵やほこりを払い、ひろげて風に当てるのだ。和装本は軽いとは言え、ひと抱えとなるとやはり重い。リフト設備がないから３階まで足で稼ぐことになる。人数があれば手渡しも可能だが、３階まで並ぶ人数はいない。汗にまみれ、ほこりにまみれる。裸でやることも許された作業であった。

ＰＲは型破り

図書館が市民のものであり、図書館が実施するサービスは誰もが自由に利用できることを知ってもらうことが必要な時代だったから、ＰＲの役割は大きかった。それ故常に魅力的な媒体が求められた。図書館では常道である機関紙のほか、奇智にあふれた方法で「くらしの中に図書館を」と訴えた。一覧で見ていただくことにする。

- 昭和 23(1948) 年　東側通用門脇に看板と標識を設置。
- 昭和 25(1950) 年　館報発行開始。名称やスタイルを変えながら現在まで続けられている。特に初期の館報は日本図書館協会がおこなった館報コンクールで入賞した。
- 昭和 26(1951) 年　読書週間に街頭放送で宣伝。当時街頭放送は珍しく新しい宣伝手段だった。
- 昭和 36(1961) 年　読書週間中、市内全戸に図書館利用を呼びかけるチラシを配布した。
- 昭和 38(1963) 年　読書週間に貸出図書を入れる「図書袋」を配布した。紙製ながらユニークなイラストが人気を呼んだ。袋の配布は好評で、数年続けた。なおスポンサーは市内の書店であった。

※1　帝国図書館…現在の国立国会図書館の源流の一つ。
※2　洋装本…今の普通の本。　和装本…昔の日本の糸綴じの本。
※3　紙魚…シミ。本の表面をなめるようにごく浅く食害する虫。

この連載は今回で一旦終了です。